



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成30年1月29日

上場会社名 株式会社コーエーテクモホールディングス

上場取引所 東

コード番号 3635 URL <http://www.koeitecmo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 襟川 陽一

問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員CFO (氏名) 浅野 健二郎 TEL 045-562-8111

四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無: 無

四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日~平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	24,030	△0.7	5,688	62.5	11,405	43.1	8,261	38.0
29年3月期第3四半期	24,199	7.3	3,499	△11.1	7,972	△16.2	5,987	△12.3

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 13,657百万円(73.7%) 29年3月期第3四半期 7,861百万円(325.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	78.23	78.01
29年3月期第3四半期	56.91	56.75

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	126,294	114,625	90.5	1,081.25
29年3月期	119,461	106,516	89.0	1,007.28

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 114,295百万円 29年3月期 106,262百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	-	0.00	-	56.00	56.00
30年3月期	-	0.00	-	-	-
30年3月期(予想)	-	-	-	56.00	56.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日~平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,000	13.4	11,500	31.0	16,000	5.2	11,700	0.6	111.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
 新規 ー社 (社名) ー 除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	107,723,374株	29年3月期	107,723,374株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	2,015,995株	29年3月期	2,229,512株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	105,597,996株	29年3月期3Q	105,207,233株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善し、企業収益も上向くなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

ゲーム業界におきましては、2017年の国内家庭用ゲーム市場が11年ぶりにハード・ソフトともに前年を上回りました。新型ゲーム機「Nintendo Switch」の伸びが著しく、12月には全世界累計販売台数が1,000万台を突破するなど市場を大きく牽引しております。海外ではゲームのデジタル販売やスマートフォンゲーム市場も拡大しており、ゲーム市場全体は今後も更なる成長が見込まれます。

このような経営環境下において、当社では経営方針「IPの創造と展開」のもと、各種施策に取り組んでおります。11月に開催された「PlayStation Awards 2017」において『仁王』が

「Gold Prize」と「ユーザーズチョイス賞」を受賞し、高く評価されました。本編にダウンロードコンテンツ三部作を収録した『仁王 Complete Edition』（PS4、Steam用）を発売し、引き続きワールドワイドで販売拡大を図っております。テクモ創業50周年プロジェクトとなる多機能VR筐体『VRセンス』が、12月に各地のアミューズメント施設で稼働を開始しました。新分野への挑戦を今後も積極的に推進してまいります。

これらにより当社グループの当第3四半期業績は、売上高240億30百万円（前年同四半期比0.7%減）、営業利益56億88百万円（同62.5%増）、経常利益114億5百万円（同43.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益82億61百万円（同38.0%増）となりました。コラボレーションやIP許諾等のロイヤリティ収入が増加し、利益率が向上しております。その結果、営業利益、経常利益、四半期純利益においては、第3四半期連結累計期間として経営統合以来、最高益を更新いたしました。

セグメントの状況につきましては以下のとおりです。

エンタテインメント事業 売上高 212億64百万円 セグメント利益 49億16百万円

「シブサワ・コウ」ブランドでは、シリーズ15作目となる最新作『信長の野望・大志』（PC、PS4、Nintendo Switch、Steam用）を11月に発売しました。本作はiOS版も2018年1月にリリースしており、最新の家庭用ゲームがスマートフォンにも同時展開される当社として初めてのチャレンジとなります。当社がIPを許諾し、8月から中国でサービス中のスマートフォンゲーム『三國志2017』が、11月にアジア3地域（台湾、香港、マカオ）でも配信開始され、登録者数は300万人を突破しました。

「ω-Force」ブランドでは、Nintendo Switch向けに「無双」シリーズの3タイトル『真・三國無双7 Empires』、『戦国無双～真田丸～』、『無双OROCHI 2 Ultimate』を発売し、ラインナップを拡充しました。

「Team NINJA」ブランドでは、任天堂株式会社の「ファイアーエムブレム」と当社「無双」シリーズとのコラボレーションタイトル『ファイアーエムブレム無双』を10月に海外で発売しました。バカンスゲーム『DEAD OR ALIVE Xtreme Venus Vacation』をゲームプラットフォーム「DMM GAMES」でサービスを開始し、同ランキングで1位を獲得するなど好調な立ち上がりとなりました。スマートフォンゲームでは、株式会社スクウェア・エニックスと共同で開発した『DISSIDIA FINAL FANTASY OPERA OMNIA』が引き続き収益に貢献しました。

「ガスト」ブランドでは、12月に『リディー&スールのアトリエ～不思議な絵画の錬金術士～』（PS4、PS Vita、Nintendo Switch用）を国内向けに、『よるのないくに2～新月の花嫁～』（PS4、Steam用）を欧米・アジア向けに発売しました。

「ルビーパーティー」ブランドでは、『金色のコルダ2 ff』（PS Vita用）を発売しました。イベント事業では「ネオロマンス・フェスタ 遙か”八葉”祭」や、立体映像表現を用いたバーチャルライブなど、当第3四半期中に3つのイベントを開催しました。

新ブランド「midas(ミダス)」では、新規スマートフォンゲームを鋭意開発しております。

以上の結果により、増収増益を達成いたしました。

SP事業 売上高 7億37百万円 セグメント利益 2億46百万円

当第3四半期においては『CR無双OROCHI』など2タイトルがリリースされました。パチンコ・パチスロ機は規則の改正による先行き不透明な状況もあり、受託案件の減少により減収減益となりましたが、引き続き効率的な受託開発業務を推進してまいります。

アミューズメント施設運営事業 売上高 11億66百万円 セグメント損失 2億27百万円

既存店売上高は、プライズゲームを中心とした施策が奏功し前年同期を上回りました。12月には『VRセンス』が稼働開始し、『超真・三國無双』、『3 Majesty × X.I.P. DREAM☆LIVE』などのVRコンテンツが好評を博しました。『VRセンス』の開発費が先行し、セグメント損失が発生しております。

不動産事業 売上高 5億86百万円 セグメント利益 2億68百万円

当社グループが保有する賃貸用不動産が引き続き高い稼働率を維持しております。

その他事業 売上高 5億52百万円 セグメント利益 4億83百万円

ベンチャーキャピタル事業において、出資先ファンドからの分配金収入が発生いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比較して68億32百万円増加し1,262億94百万円となりました。これは主に、投資有価証券が159億68百万円、建設仮勘定が35億12百万円増加した一方で、現金及び預金が63億58百万円、売掛金が27億38百万円、有価証券が18億20百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比較して12億76百万円減少し116億68百万円となりました。これは主に、短期借入金が増加した一方で、未払金が26億70百万円、未払法人税等が15億5百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比較して81億9百万円増加し1,146億25百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が48億45百万円、利益剰余金が23億53百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年4月27日に公表した通期の連結業績予想は変更しておりません。今後、業績予想数値に修正が生じる場合は速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,868	5,510
受取手形及び売掛金	8,168	5,429
有価証券	1,871	50
商品及び製品	96	102
仕掛品	4	354
原材料及び貯蔵品	42	110
繰延税金資産	939	380
その他	3,721	2,003
貸倒引当金	△23	△18
流動資産合計	26,689	13,924
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,993	10,887
土地	14,615	14,615
建設仮勘定	9	3,522
その他(純額)	508	522
有形固定資産合計	26,126	29,548
無形固定資産		
その他	208	203
無形固定資産合計	208	203
投資その他の資産		
投資有価証券	65,484	81,452
繰延税金資産	142	270
その他	809	894
投資その他の資産合計	66,436	82,618
固定資産合計	92,772	112,369
資産合計	119,461	126,294

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	487	671
短期借入金	—	2,500
未払金	4,244	1,574
未払法人税等	2,566	1,061
賞与引当金	949	554
役員賞与引当金	242	84
返品調整引当金	0	0
売上値引引当金	255	162
ポイント引当金	21	17
繰延税金負債	0	0
その他	2,691	1,611
流動負債合計	11,460	8,238
固定負債		
退職給付に係る負債	295	173
繰延税金負債	326	2,414
その他	861	842
固定負債合計	1,484	3,430
負債合計	12,944	11,668
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,000	15,000
資本剰余金	25,937	26,085
利益剰余金	66,159	68,512
自己株式	△1,456	△1,320
株主資本合計	105,639	108,277
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,130	7,976
土地再評価差額金	△3,115	△3,115
為替換算調整勘定	697	1,254
退職給付に係る調整累計額	△90	△97
その他の包括利益累計額合計	622	6,018
新株予約権	254	330
純資産合計	106,516	114,625
負債純資産合計	119,461	126,294

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	24,199	24,030
売上原価	14,933	12,967
売上総利益	9,265	11,063
販売費及び一般管理費	5,765	5,375
営業利益	3,499	5,688
営業外収益		
受取利息	1,316	1,694
受取配当金	1,143	1,184
投資有価証券売却益	2,239	3,715
その他	301	328
営業外収益合計	5,001	6,923
営業外費用		
投資有価証券評価損	196	203
投資有価証券売却損	221	130
有価証券償還損	33	728
その他	77	142
営業外費用合計	528	1,205
経常利益	7,972	11,405
税金等調整前四半期純利益	7,972	11,405
法人税、住民税及び事業税	1,795	2,742
法人税等調整額	189	402
法人税等合計	1,984	3,144
四半期純利益	5,987	8,261
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,987	8,261

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
四半期純利益	5,987	8,261
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,981	4,845
為替換算調整勘定	△1,099	557
退職給付に係る調整額	△7	△7
その他の包括利益合計	1,873	5,395
四半期包括利益	7,861	13,657
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,861	13,657

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	エンタテインメント	S P	アミューズメント 施設運営	不動産	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	20,943	1,539	940	593	24,016	182	24,199
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	177	1	—	—	178	74	252
計	21,120	1,540	940	593	24,194	256	24,451
セグメント利益	2,713	579	76	249	3,619	188	3,808

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ベンチャーキャピタル事業等を含んでおります。

2. 管理部門等の報告セグメントに帰属しない本社費用については、合理的な配賦基準により各報告セグメントへ配賦しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,619
「その他」の区分の利益	188
のれんの償却額	△290
営業外損益への振替高	△18
四半期連結損益計算書の営業利益	3,499

(注) のれん及び資産については、セグメントごとの配分は行っておりません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	合計
	エンタテインメント	S P	アミューズメント 施設運営	不動産	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	21,065	737	1,166	586	23,555	475	24,030
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	198	0	—	—	199	77	276
計	21,264	737	1,166	586	23,755	552	24,307
セグメント利益又は 損失(△)	4,916	246	△227	268	5,203	483	5,688

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ベンチャーキャピタル事業等を含んでおります。

2. 管理部門等の報告セグメントに帰属しない本社費用については、合理的な配賦基準により各報告セグメントへ配賦しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,203
「その他」の区分の利益	483
四半期連結損益計算書の営業利益	5,688

(注) 資産については、セグメントごとの配分は行っておりません。